

論壇

拡大阻む東京一極集中

海外に行つていつも感じることは、日本に比べて格安航空（LCC）が多く飛んでいるということだ。旧来の航空会社の運賃の半分とか3分の1程度で、どこにでも飛んでいくことができる。米国ではサウスウエスト航空が有名だ。格安航空の会社なのに、大手の航空会社以上の高い利益を上げている。

欧州ではアイルランドを拠点とする瑞安航空が有名だが、欧州の多くの拠点を結ぶネットワークを確立して、低料金で移動したい人に重宝している。アジアでも、

伊藤 元重

学習院大教授(国際経済学)

日本の航空業界とLCC

例えばマレーシアでは、マレーシアの代表的な航空会社であったマレーシア航空が、新興の格安航空であるエアアジアに追い抜かれる状況である。急速に成長したエアアジアはアジアに広いネットワークを広げつつある。

日本でも最近、格安航空が少しずつ増えているが、まだその広がりにまで空港を利用してもらうことは難しかった。

あるいは熊本と仙台などの間の空路の需要は非常に少ない。

東京に一極集中する便を引き受けるのは、羽田空港と成田空港であるが、どちらも満杯状態に近かった。旧来の大手の航空会社の路線は引き受けられても、格安航空にまで空港を利用してもらうことは難しかった。

りのスピードは遅い。これにはいろいろな理由があるが、最も大きな理由は航空ネットワークの東京への一極集中である。多くの国内線と国際線が、東京行き、あるいは東京発の便であるということだ。例えば、熊本と東京の間には多くの需要があるが、熊本と大阪

そこで日本での格安航空は混雑が少ない地方の空港などに広がることになる。こうした動きは地方空港にとってはありがたいことであった。ただ、日本全体の航空ネットワークということであれば、もっと首都圏の空に格安航空が来ることが必要なのは明らか

成田で積極的取り組み

こうした動きに最近、変化が出てきた。それは羽田空港の拡張と国際線の利用の拡大で、成田空港のスポット（発着枠）に余裕ができてきたことだ。多くの国際線が羽田空港にシフトすることで、成田空港は危機感を持ち始めている。そこで生き残り戦略として、成田空港は積極的に格安航空を受け入れるという路線を打ち出した。

すでに全日空系列の格安航空が成田発着で路線を広げている。日本航空も成田発着の中長距離の国際線の格安便を飛ばすことを発表している。拡大する海外旅行の需要を取り込むためには、格安航空に積極的に取り組むことが必要であると考えているのだ。

海外では、格安航空の勢いに押されて、一部の旧来の航空会社が経営困難に陥っている。高い料金だけの殿様商売ではやっていけないということだろう。そうした状況をみて、日本の大手航空会社も対応せざるを得ない。

利用者から見れば、格安航空の路線が増えることは歓迎すべきことだ。また、静岡空港のように首都圏に近い立地のローカル空港にとっても、格安便をどのように取り込んでいくのかということが、空港の利用拡大のためにも大きな鍵となるだろう。拡大する訪日観光客の動きとも関連して、格安航空の動きには注目する必要があるだろう。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。